

アルコール健康障がいにおける病病・病診連携に係る調査について

1 調査目的

泉州二次医療圏域における内科等一般医療機関からアルコール依存症の地域連携拠点医療機関への紹介・連携状況を明らかにし、課題やニーズを整理することで、今後のアルコール健康障がいにおける対策を充実させる。

2 調査方法

(1) 対象

泉州医療圏域内の医療機関のうち、次の医療機関

①アルコール依存症の地域連携拠点医療機関

地域連携拠点 医療機関	【和泉保健所管内】 新生会病院、阪和いずみ病院、和泉中央病院、浜寺病院 【岸和田保健所管内】 久米田病院、川田クリニック 【泉佐野保健所管内】 七山病院	計 7 か所
----------------	--	--------

②アルコール依存症の地域連携拠点医療機関での調査で連携があると挙げられた内科等一般医療機関及び三次救急告示医療機関

三次救急 告示医療機関	【岸和田保健所管内】 岸和田徳洲会病院 【泉佐野保健所管内】 りんくう総合医療センター	計 2 か所
内科等一般 医療機関	【和泉保健所管内】 和泉市立総合医療センター、府中病院、高石藤井病院、 きただ内科クリニック、やまぐち内科クリニック、川口クリニック 【岸和田保健所管内】 岸和田市民病院、葛城病院、畑田医院 【泉佐野保健所管内】 青松記念病院、りんくう永山病院、佐野記念病院、 阪南市民病院、永山病院、上仁上田クリニック	計 15 か所

(2) 内容

- ①内科等一般医療機関からの紹介状況及び医療連携における課題等に関する調査項目について回答を求めた。
- ②地域連携拠点医療機関への紹介状況、アルコール関連問題のある人への簡易介入の普及及び実施状況、医療連携における課題等に関する調査項目について回答を求めた。

(3) 期間

- ①アルコール依存症の地域連携拠点医療機関対象 令和 6 年 11 月 11 日～11 月 22 日
- ②内科等一般医療機関及び三次救急告示医療機関対象 令和 6 年 12 月 5 日～12 月 20 日

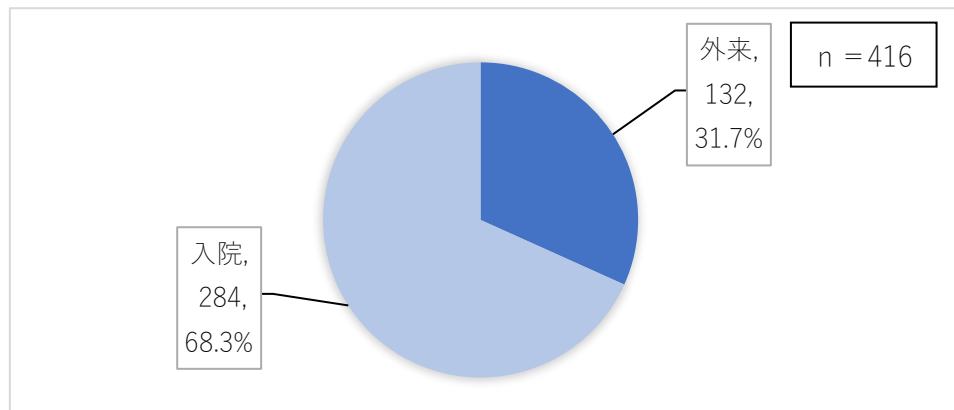
①【地域連携拠点医療機関対象調査の結果】

1. アルコール健康障がいの患者の受入れ件数

* 令和6年4月～9月の間に、初めて受診された患者の件数。

* 初診から2週間以内に入院となった患者は入院者として計上。

図1 地域連携拠点医療機関で受入れたアルコール健康障がいの患者の件数（令和6年4月～9月）



2. 1. の内訳

図2 地域連携拠点医療機関で受入れたアルコール健康障がいの患者の紹介元

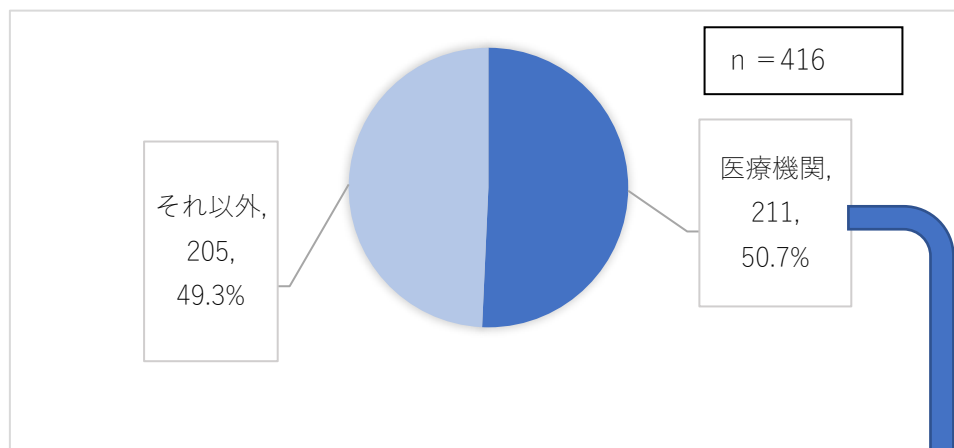
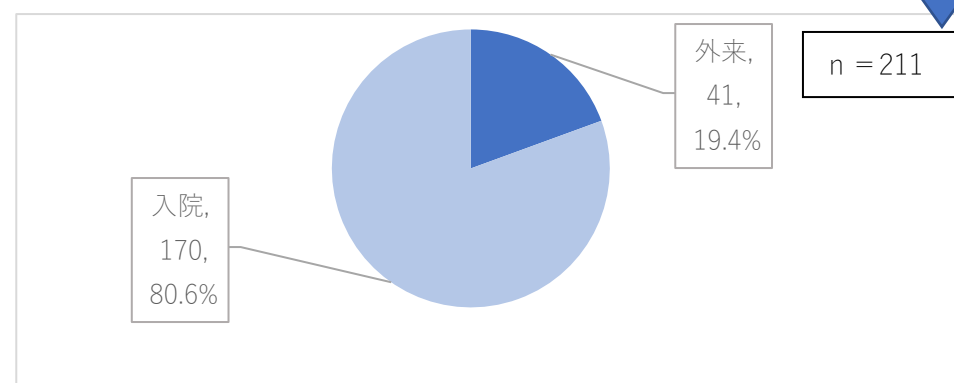


図3 医療機関からの紹介で受入れた患者の受入れ種別



3. 医療機関から依頼があったケースの内訳

表 1 紹介元医療機関の種類別（拠点・アルコール専門・拠点以外精神科・三次救急・一般）

拠 点	アルコール専門	拠点以外精神科	三次救急	一 般	計
66	18	35	12	82	213

【計の内訳については、同一人物について 2 医療機関から紹介があったケースが 2 件あったため、n = 213 となる】

図 4 紹介元医療機関の類型別（拠点・アルコール専門・拠点以外精神科・三次救急・一般）

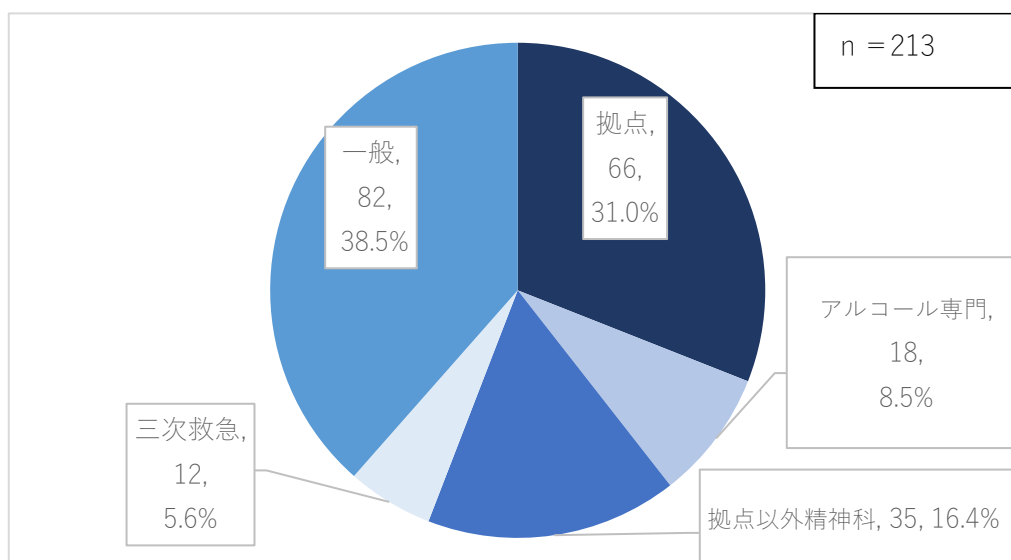


表 2 紹介元医療機関の所在地

豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉州	大阪市	堺市	他府県	計
1	2	1	26	10	50	52	39	32	213

図 5 紹介元医療機関の所在地

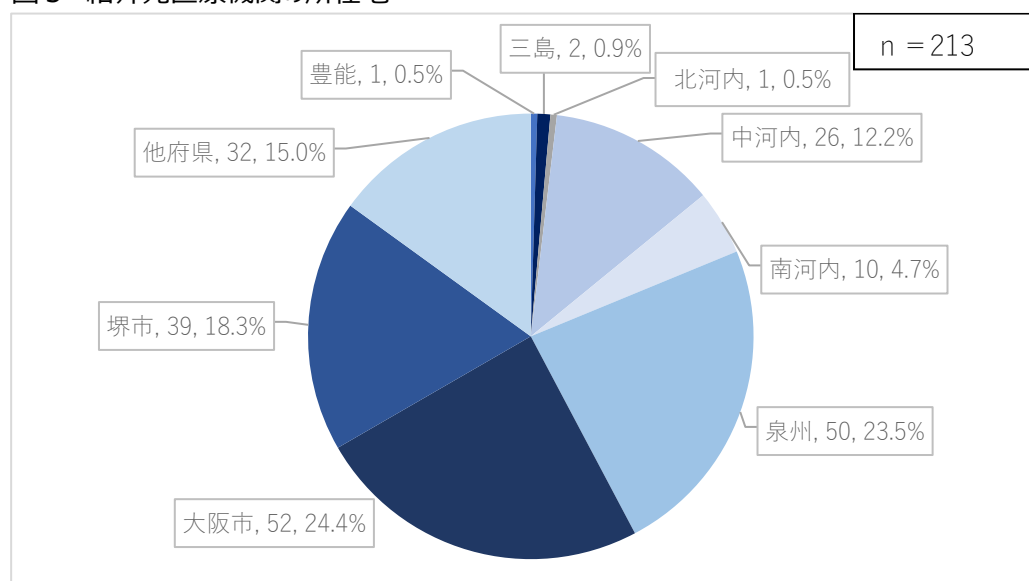


表 3 医療機関所在地と患者住所地

		医療機関所在地					
		泉州	堺市	大阪市	その他大阪府内	他府県	計
患者 住 所 地	泉州	48	1	0	1	2	52
	堺市	0	34	0	0	0	34
	大阪市	1	1	47	15	0	64
	その他大阪府内	0	3	5	24	0	32
	他府県	1	0	0	0	30	31
	計	50	39	52	40	32	213

図 6 医療機関所在地と患者住所地

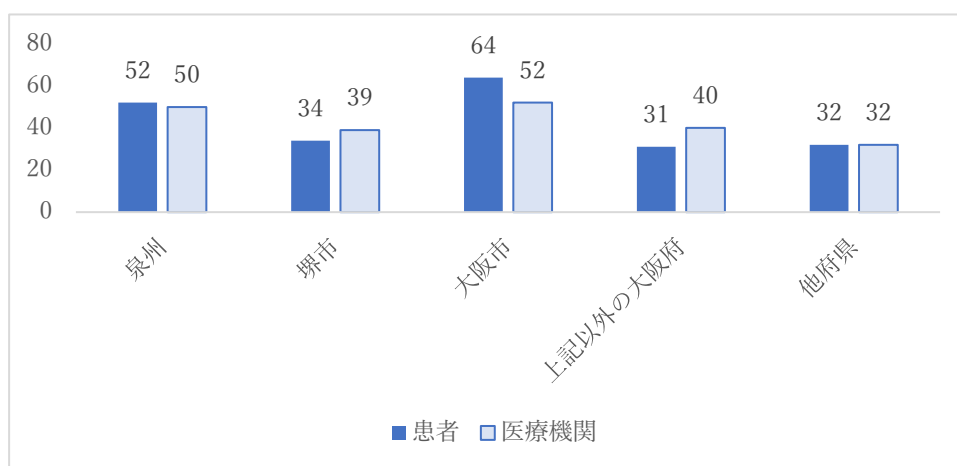


表 4 紹介元医療機関の形態別件数

	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	大阪市	堺市	泉州	他府県
診療所	1	0	1	24	2	44	11	11	22
病院	0	2	0	2	8	8	28	39	10
計	1	2	1	26	10	52	39	50	32

図 7 紹介元医療機関の形態別件数

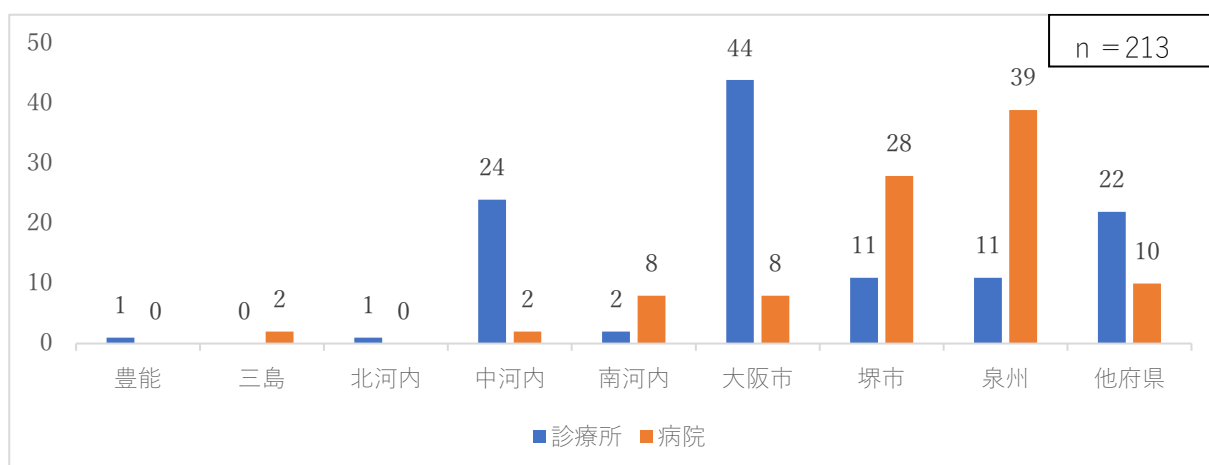


図 8 紹介元医療機関の圏域別と種類別

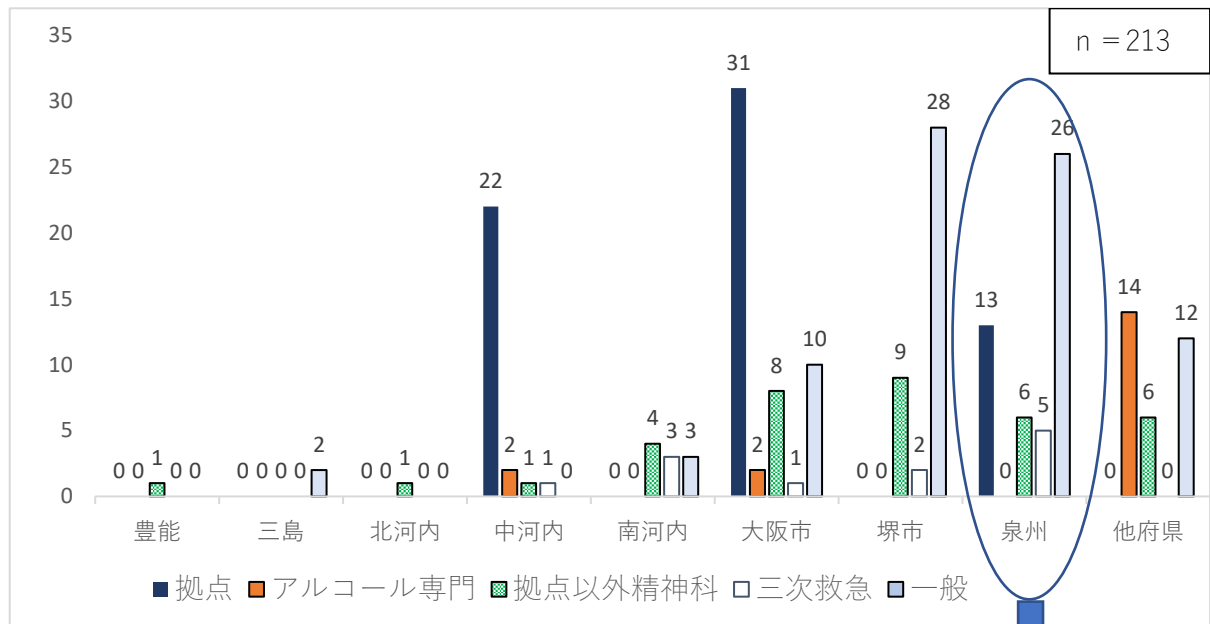


図 9 紹介元医療機関(泉州)の種類別件数

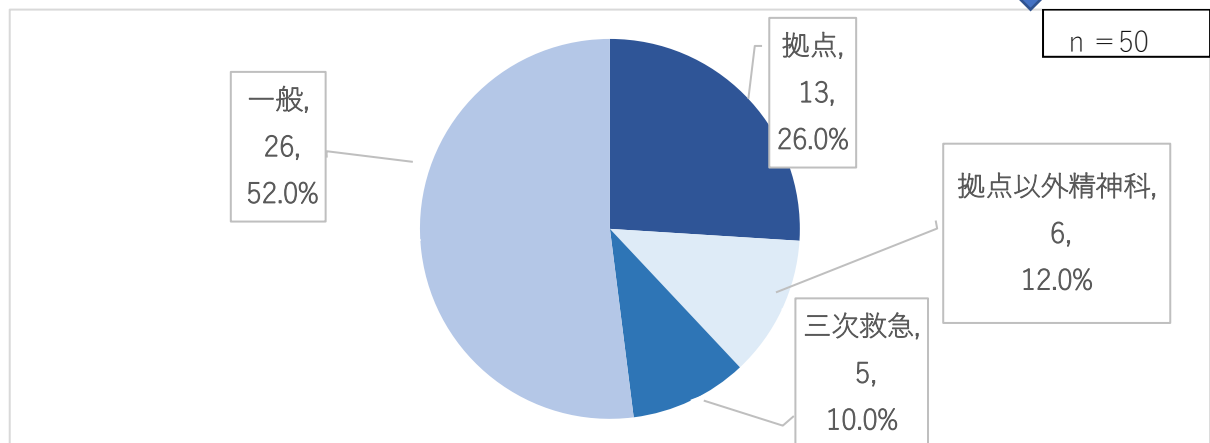
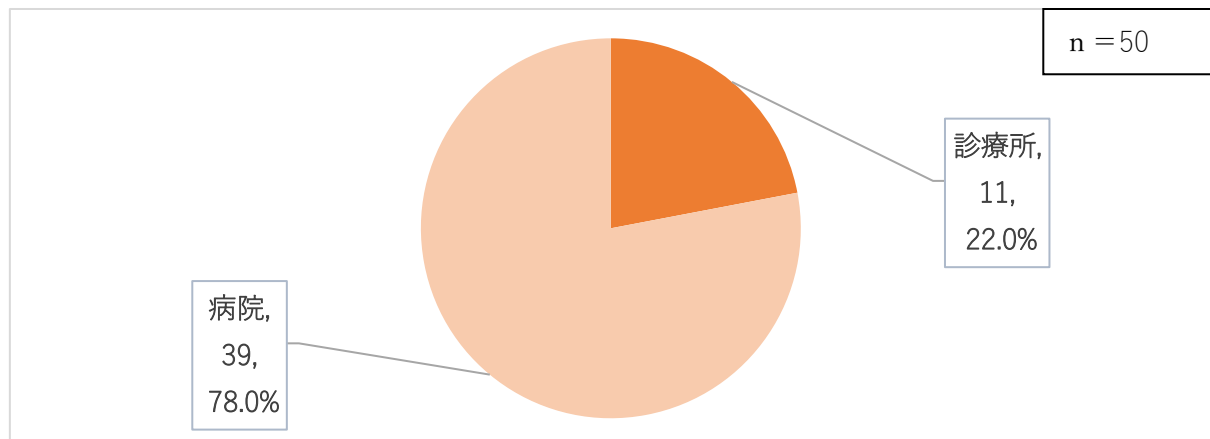


図 10 紹介元医療機関(泉州)の病院・診療所別件数



4. 外来・入院を問わず、行っているアルコール依存症対応プログラム等の実施状況

表 5 アルコール依存症対応プログラム等の実施状況

	実施あり	実施なし	計
1 本人向け集団療法	3	4	7
2 本人向け個別療法	6	1	7
3 家族向け集団教育	5	2	7
4 家族向け個別教育	4	3	7
5 その他	3	4	7

5. 医療連携において、考えられる課題について

- ・患者がアルコールの問題を否認することから、医師が依存症に気づかない場合や、気づいたとしても依存症治療により回復していくプロセスを十分に知らないことから適切に対応できていないと思われる場合がある。
- ・医療保護入院の場合は家族等の同意が必要であること、任意入院の場合は本人の同意が必要であることなど、精神科における入院形態の条件について、一般医療機関が十分に知らず、それらの情報がわからないまま入院の依頼を受けることがある。
- ・身体合併症疾患の管理。
- ・各医療機関の対応や受け入れが可能な範囲の相互把握が不十分。
- ・増悪する前段階での専門家による受診推進が必要。
- ・一般医療機関内でアルコールの問題に早期介入することの報酬上のメリットが無いため、優先順位が低く、積極的な介入に至らないのではないか。
- ・通院継続の必要性を判断し、紹介の見極めが困難。

6. 課題の解決に向けて、必要と考えられることについて

- ・医学教育（依存症を病気として、回復までのプロセスを実修する体制）が必要。
- ・精神科医療の受診および入院について、おおよそ理解しておくこと。
- ・アルコール治療への理解。
- ・アルコール健康障がいサポート医の養成（広島県に先駆例あり）。
- ・繋がりや顔の見える関係作り、情報共有しやすい環境。
- ・早期介入することについて、社会全体の医療費の抑制や、社会的損失の低減だけでなく、内科等一般医療機関にとって即時的なメリットを提示できること。

7. 課題の解決に向けて必要と考えられる行政機関等からの支援について

- ・繋がりや顔の見える関係作り、情報共有しやすい環境を作るための交流会などの開催。
- ・アルコール問題における専門医療機関の必要性の普及。
- ・初期介入の充実、自助グループへの支援。
- ・一般医療機関へのミクロなメリットの提示。

8. 内科等一般医療機関及び三次救急告示医療機関に連携について聞きたいこと

- ・アルコール問題のある方において、精神科病院側でどのような対応が出来れば連携しやすいなどがあれば聞きたい。
- ・アルコールの問題のある方への早期的な介入のどこに難しさや困難さがあるのか（对患者への関わりの難しさなのか、所属機関の中で、積極的な介入を容認してもらえないような雰囲気があるのか等）。

②【泉州二次医療圏限定 一般・三次救急告示医療機関対象調査の結果】

1 回答医療機関

16 件/17 件 (94.1%)

2 令和 6 年 4 月から 9 月までの間でアルコールの問題が疑われたケースの件数

	患者数
外来	305
入院	32
搬送	72
合計	409

3 2のうち、アルコール依存症の地域連携拠点医療機関に紹介したケースの件数

13 件/409 件 (3.2%)

4 アルコールの問題があることについてどのように把握しましたか (複数回答)

項 目	回答数
① 本人の話	9
② 救急隊の情報	7
③ 付き添い家族の情報	7
④ 本人の様子	6
⑤ アルコール臭	5
⑥ すでに把握している飲酒歴・病歴	4
⑦ 検査結果	4
⑧ その他 (担当ケアマネから、アルコール性肝硬変、診察結果)	3
⑨ スクリーニングテスト (AUDIT/CAGE)	0

5 2のうち、ケースに多く見られる年齢・性別

ケースに多く見られる年齢、性別に特に傾向はみられなかった。

6 2のうち、ケースに多く見られる受診時間帯の傾向の有無

	ある	ない	不明	無記入
受診時間帯	3 ※	10	1	1

※「ある」の詳細は「日中」2 件
「夜間」などの時間外 1 件

7 SBIRTS、スクリーニングテスト、ブリーフインターベンションについて、知っているか

	知っている	知らない	計
① SBIRTS	1	14	15
② スクリーニングテスト	2	13	15
③ ブリーフインターベンション	2	13	15

8 スクリーニングテスト、ブリーフインターベンションについて、実施したことがあるか

	ある	ない	無記入	計
① スクリーニングテスト	0	14	1	15
② ブリーフインターベンション	0	15	0	15

9 アルコールの問題が疑われるケースの受け入れについて、困難と感じる点はどのようなことか（複数回答）

項 目	回答数
① 指示に従わない、「帰る」などと言い、急に怒り出すことがある。	9
② 処置を行う医師・看護師に対して抵抗したり、怒ったりする。	9
③ 酩酊時や覚醒したときに、転倒転落リスクがある。	7
④ 点滴を自己抜去するなど行動の予測がつかない。	7
⑤ 酩酊しており、いつ動き出すか予測がつかない。	6
⑥ 付き添いがいない、あるいはいなくなった時に別の場所に行ってしまうことがある。	5
⑦ 周囲に迷惑をかけることがあり、観察を行うのが難しい。	5
⑧ 認知機能が低下しており、診察を拒否することがある。	4
⑨ 職員に対して暴力を振るわれたことがあった。	4
⑩ 突然尿意を訴えて動き出すことがある。	3
⑪ その他（治療意欲がない、病識がない、酩酊状態であり、主たる身体的問題の鑑別が困難）	3

10 アルコールの問題が疑われるケースへの対応で困難を感じる点はどのようなことか（複数回答）

項 目	回答数
① 検査結果を踏まえて、飲酒をやめるように説明しても納得がえられない。	11
② 一時的に断酒しても、身体がよくなったらまた飲酒してしまう。	10
③ 家族や関係機関の協力が必要と思われるが、連絡が取りにくい。	5
④ 酩酊して受診する時があって、対応が難しい。	4
⑤ 身体症状の原因が飲酒であることを、本人・家族に指摘しにくい。	3
⑥ 身体の治療を行ってよくなっても、飲酒によってまた身体状態が悪くなってしまう。	3
⑦ 飲酒・断酒は個人の問題なので指摘するのは難しい。	2
⑧ その他（ 回答なし ）	1

11 アルコール依存症の地域連携拠点医療機関に紹介する際の課題について（複数回答）

項 目	回答数
① アルコール依存症の地域連携拠点医療機関に紹介しても、自院に戻ってきてしまう。	5
② 精神科に紹介することのハードルがある。	5
③ アルコール依存症の地域連携拠点医療機関でどのような治療をしているか知らない。	3
④ 紹介すると本人・家族が怒ってくるので紹介が難しい。	3
⑤ アルコール依存症の地域連携拠点医療機関がどれかわからない。	2
⑥ アルコール依存症の地域連携拠点医療機関に連絡する方法がわからない。	1

⑦ 入院治療が必要と思っても入院にならないことに疑問を感じる。	1
⑧ 紹介してもよくならないので、専門治療について疑問がある。	0
⑨ アルコール依存症の地域連携拠点医療機関以外の精神科病院で治療が行えないのか疑問を感じる。	0
⑩ その他（そもそも患者が希望しない受診を提案しても拒否する）	3

12 課題の解決に向けて、どのようなことが必要か（複数回答）

項 目	回答数
① アルコール依存症の地域連携拠点医療機関の地域連携室との連携体制を作る。	7
② アルコール依存症の地域連携拠点医療機関でどのような治療をしているか周知してほしい。	5
③ アルコール依存症の地域連携拠点医療機関へ紹介する際、よい方法があれば教えてほしい。	5
④ アルコール依存症の地域連携拠点医療機関で入院した場合、どのような治療をしているのか教えてほしい。	3
⑤ アルコール依存症の地域連携拠点医療機関がどこか教えてほしい。	2
⑥ アルコール依存症の地域連携拠点医療機関の医師との連携体制を作る。	2
⑦ アルコール依存症の地域連携拠点医療機関と一般病院の協議の場を設定する。	2
⑧ その他（ 回答なし ）	2

13 課題の解決に向けて、行政機関等からの必要な支援はどのようなものか（複数回答）

項 目	回答数
① 飲酒の問題のある本人・家族に対して関わりを持ってほしい。	11
② 本人・家族が気軽に相談できるように訪問を行ってほしい。	7
③ 専門病院につなぐ必要のあるケースについてコンサルテーションを行ってほしい。	5
④ アルコール依存症の地域連携拠点医療機関と一般病院の協議の場を設定してほしい。	4
⑤ アルコール依存症について学ぶ場を提供してほしい。	3
⑥ 退院時のカンファレンスに参加してほしい。	1
⑦ 専門病院につなぐ手法についての研修会を行ってほしい。	1
⑧ 専門病院での治療について学ぶ機会を作してほしい。	0
⑨ その他（ 回答なし ）	1

14 アルコール依存症の地域連携拠点医療機関からの質問への回答について

14-1 アルコール問題のある方への早期的な介入のどこに難しさや困難さがありますか。

- ・アルコール問題への理解や認識等がないこと。
- ・本人の理解が得られない。病識がないことで協力が得られない。家族が疲弊しており、患者だけでなく家族へのサポートも必要になる。
- ・外来での助言、指導が十分ではない。重症になってから入院調整依頼がくる。
- ・患者が正常な認識の時に接点がない。
- ・依存の原因に対する介入には時間がかかる。

14-2 アルコール問題のある方において、精神科病院側でどのような対応が出来れば連携しやすいか

- ・病院（精神科）となるとなかなかハードルが高いので、サテライトクリニック的なものがあればまだ受診しやすいのではないかと。
- ・入院依頼の時間にもよるが、当日入院がお願いできれば助かる。
- ・本人同意が基本であるが、はじめは医師、家族の同意で入院させてほしい。
- ・どのような治療をしているか知りたい。
- ・本人が希望していないとアルコール専門医療に繋ぐことが難しい。病院に面談に来てほしいときがある。
- ・アルコール依存症に対する治療目的での転送・転院でのスムーズな受入れ。
- ・積極的に定期フォローをしてほしい。
- ・家族と疎遠になっている人が多いため、後見人などの社会的支援の介入調整があればよい。